

2024年1月12日

博報堂生活綜研（上海）、「生活者“動”察 2023」研究成果を発表

本格的なアフターコロナを迎え、新たな時代へ再始動していく中国生活者「内巻」、「躺平」よりも、自分の世界を軽やかに啓いていく「軽啓 (Qingqi)」へ

博報堂生活綜研(上海)は、中国伝媒大学広告学院との共同研究「生活者“動”察」の11回目となる研究発表会を、中国・北京市にて4年ぶりにオフラインで開催しました。

今年の研究テーマは、「新たな時代へ再始動していく中国生活者の実態」です。2023年は、消費行動に関してはまだ弱含みな印象も残る中、私たちは生活者が取り組んでいる「コト」に変化の兆しを感じ、その実態を研究しました。

急速な経済成長や社会変化を背景に、仕事での成功、社会変化へのキャッチアップなどを意識して目標を設定し、その目標に向かって邁進してきた2010年代の中国生活者。しかし、ここ数年間、経済成長が緩やかになり、2010年代半ばに比べると生活環境の変化も小さくなる中で、人々はよりプライベートを重視し、トレンドを追うだけでなく、自分の世界を多方面に啓いていけるように自ら目標を見出しています。そして今回の研究を通じ、自ら設定した目標に向けて自分に過度な負荷をかけず、より軽やかに進もうとし始めている中国生活者の姿がみえてきました。

私たちは、このように「自分の世界を軽やかに、少しずつ啓いていく」行動を増やし始めている現在の中国生活者の状態を「軽啓 (Qingqi)」と名付けました。



これは、この数年間注目されていた「内巻」（仲間内で過度な競争をしていく状態）や、「躺平」（やや気力を失い寝そべっているかのような状態）とは異なる、新たな中国生活者のスタンスだと博報堂生活綜研(上海)はみています。

1月11日に開催された発表会では、このような「軽啓」を象徴した、新たな時代のライフスタイルを模索する中国生活者のリアルな姿をご紹介します。また「軽啓」というスタンスが広がる中で、企業はマーケティング活動をどう変化させていくべきかという観点からもプレゼンテーションを行いました。

本発表のレポート（日本語・中国語）をご希望の方は、博報堂生活総研(上海) <news@hakuodo-shzy.cn>までお問い合わせください。

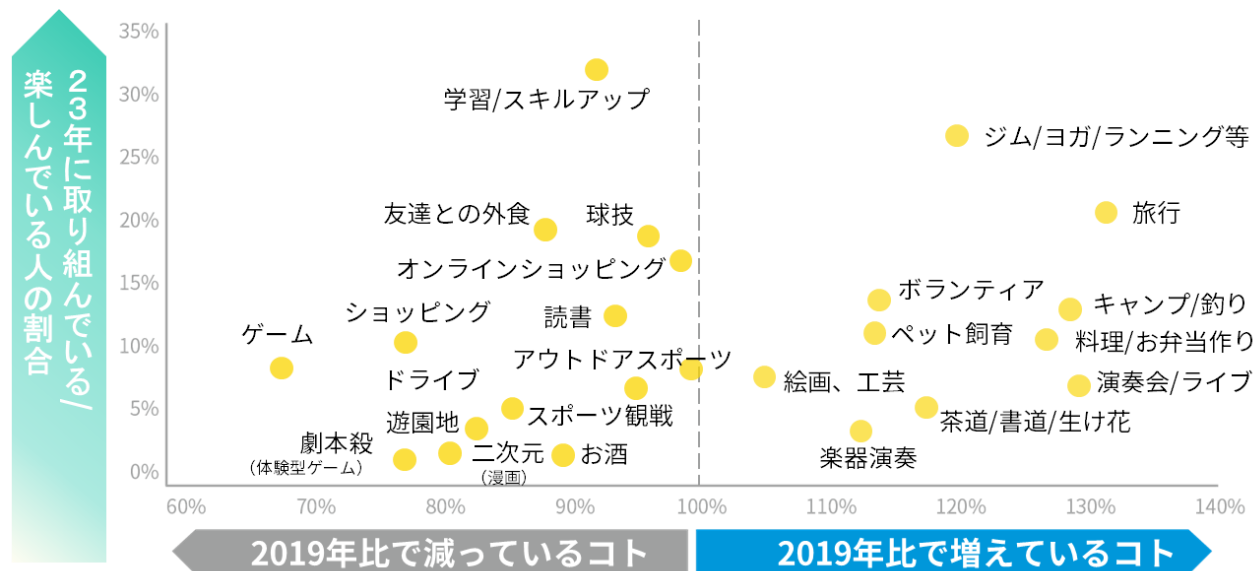
《参考データ》

① 【生活者が取り組んでいるコトの変化】

学習/スキルアップ、ゲーム、多人数で行うスポーツなどが減少し、個人でもできる趣味が増加

実際に生活者が意識的に取り組んでいるコト、楽しんでいるコトに注目すると2019年に比べて「学習/スキルアップ」、「ゲーム」、「球技」などの多人数で行うスポーツや、「友人との外食」が減少し、「ボランティア」、「旅行」、ブームとなっている「キャンプ」、「ペット飼育」に加えて、「茶道/書道/生け花」、「絵画」、「料理」などひとりでも始められる多様な趣味へと、取り組んでいるコトがシフトしています（データ1）。

<データ1> 中国生活者の取り組んでいるコト、楽しんでいるコト（2019年/2023年比較）



*横軸に「2019年→2023年の回答結果の増減率」、縦軸に「2023年に取り組んでいる人/楽しんでいる」と回答した人の割合をとって分析

② 【中国生活者が取り組むコトの変化が起きた背景】

社会/集団から個人に意識が向かい、自らやりたいことを見つけ、目標を見出し始めた中国生活者

中国では世界に先駆けて生活のデジタル化が急速に進んでいきましたが、ここ数年は生活環境の変化が緩やかになっています。加えて、コンテンツが充実し続けるスマホを見つめる時間が長くなり、いつの間にか時間が過ぎていくという生活に、やや物足りなさを感じ始めている生活者も増えています（データ2）。

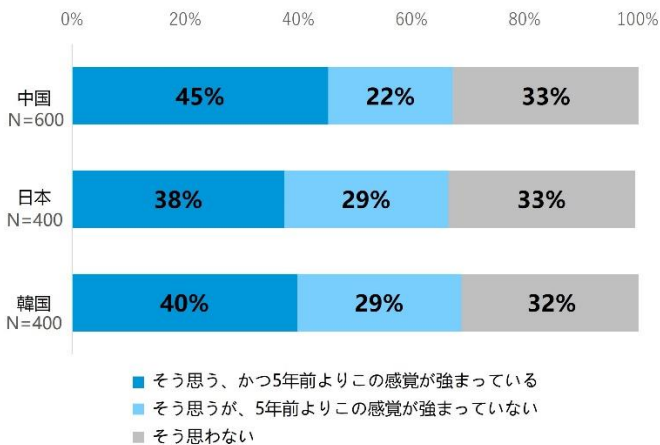
仕事の昇進や昇給が難しくなっているという感覚も強まり（データ3）、以前と比べると仕事に役立つ知識やスキルを身に着けたいという考え方はやや後退しているようです。

そのような中、仕事を通じた成功/自己実現以上に、自分のプライベートを大切にしたい、趣味を豊かにしていくことで生活の充実感を高めたいと考える生活者が増えています（データ4）。

結果として仕事での成功、社会変化やトレンドへのキャッチアップなどを意識して目標を設定してきた時代から、よりプライベートな生活の充実を重視し、「自ら目標を設定し、自分の世界を多方面に啓いていく」時代に移行していると見ることができます。

<データ2> スマートフォン使用時間に対する意識の変化

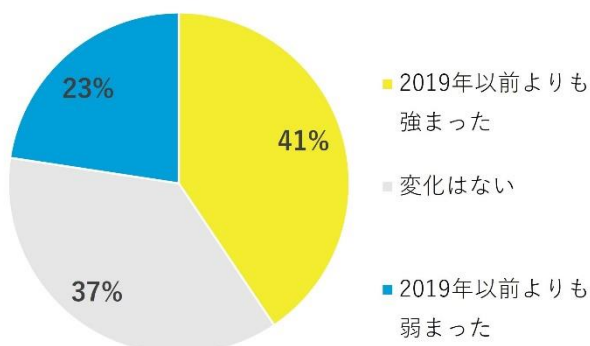
「スマートフォンをいじることに時間を使いすぎている」



博報堂生活総研（上海）「中日韓ライフスタイル/行動変化に関する国際比較調査」

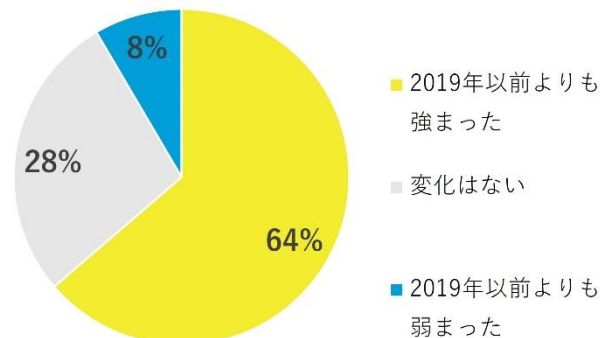
<データ3> 昇進や昇給に対する感覚の変化

昇進や昇給の余地が前よりも狭まっているという感覚



<データ4> プライベート生活に対する意識の変化

仕事での成功よりも、プライベートな生活を大切にしたいという意識



博報堂生活総研（上海）「中国生活者ライフスタイル変化調査」

③ 【中国生活者が新しいコトを始めていくときに感じるハードルと、その対処法】

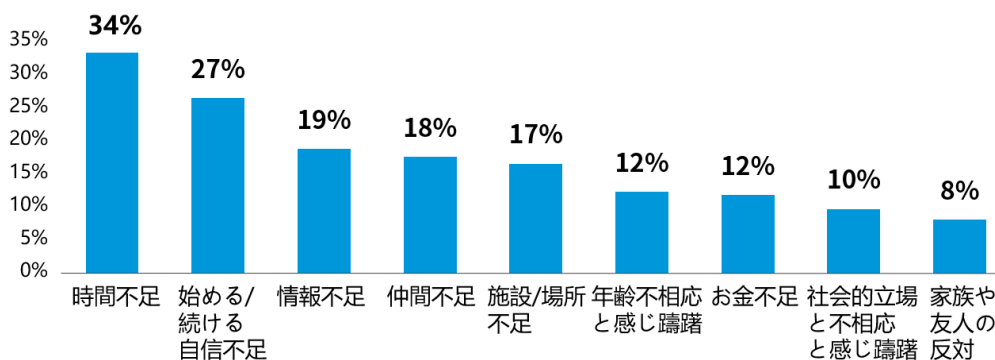
ハードルとなるのは、「時間不足」のほか、「始める/続ける自信不足」や「情報不足」、「仲間不足」。しかしそのハードルを正面突破するのではなく、軽やかに越える、かわす、今の中国生活者たち。

自ら何かを始めよう、続けようとするときには様々なハードルにも直面します。中国生活者が今何かを始め、継続するときどんなことがハードルになると感じるかきいたところ、「時間不足」がトップに。「お金不足」は7位とあまり大きなハードルになっていませんでした。その他、「始める/続ける自信不足」（2位）、「情報不足」（3位）、「仲間不足」（4位）などが上位に挙がりました（データ5）。

また、これらのハードルをどのように乗り越えているのか、インタビューを通じてきいたところ、全体的に自分に過度な負荷をかけず、軽やかにハードルを越えたり、かわしたりしている姿がみえてきました（データ6）。

<データ5> 新しいコトを始めたり、継続したりするとき感じるハードル

（「新しいコトを始めた」と回答した人ベース）



博報堂生活総研（上海）「中国生活者ライフスタイル変化調査」

<データ6> 趣味/学習行動を始めたり、継続したりするとき感じるハードルとその対処方法

	ハードルの中身	ハードルへの対処方法
始める/継続する自信不足	自分にできるようになるか、続けられるかといった心理的な不安を感じる。	試験合格やスコアの伸長など客観的評価の確認がしづらいことに取り組む人が増えているため、自分の努力の蓄積を可視化して自分に見せる、身近な誰かに褒めてもらう機会をつくるなど、 少ない負荷でモチベーションを高める工夫を凝らす。
情報不足	情報自体はあるものの、SNSやネット上の情報は断片的すぎたり、脚色されすぎたりしていて体系的でない、信用しきれない。	SNS、ネット上の情報を調べまわるのではなく、ライブ配信などの場で専門性のある人に直接質問する、やってみたい趣味を実践している人の様子を眺めてみるなど、 時間や労力をかけすぎず信用できる情報を収集。
仲間不足	やりたいことが細分化されてきているので、一緒に取り組む仲間がいない、見つけにくい。個人重視になっているので、気が合わない人とは無理に何かを始めたり続けたりしたくない。	コミュニティに継続参加して、中長期的に付き合う仲間を作るのではなく、ネット上で当日限りの趣味仲間を見つけたら、家族や近所の人、ペットと一緒にやりたいことに参加するなど、 自分に合う無理のない相手を手軽に見つける。

博報堂生活総研（上海）「中国生活者 2023 年再始動実態インタビュー調査」およびトレンド分析事例集「China Trend Watch」より作成

④ 【これからの時代の中国生活者のスタンスを表すキーワード】

「内巻」、「躺平」よりも、自分の世界を軽やかに啓いていく「軽啓 (Qingqi) 」へ

「自ら目標を設定し、自分の世界を多方面に啓いていく」という志向を持ち、その際に直面するハードルを軽やかに越えたりかわしたりしている現在の中国生活者の姿を、博報堂生活綜研（上海）は「軽啓 (Qingqi)」 (= 自分の世界を軽やかに、少しずつ啓いていく) と名付けました。

中国ではここ数年、「内巻」 (= 仲間内で過度な競争をしていく状態) や、「躺平」 (= やや気力を失い寝そべっているかのような状態) といったキーワードが注目されてきました。経済成長や社会環境の変化が緩やかになる中で、競争をしてもリターンが得られにくくなっている。それよりは、少し力を抜いて寝そべってしまおう。そんな中国生活者の状態を反映した、生活者自らもよく口にするキーワードです。

しかし、本格的なアフターコロナを迎えた 2023 年、生活者は以前とは異なる「コト」に自ら取り組み始めています。そして何かを始め、継続する際何らかのハードルに直面した場合も、自分に過度な負荷をかけず、軽やかにそのハードルを越えたりかわしたりして進んでいます。時として、今も「内巻」に参加したり、「躺平」と口にしたりすることもある中国生活者ですが、そのような中、「軽啓 (Qingqi)」というスタンスが広がってきていると考えています。博報堂生活綜研（上海）では、引き続き研究を続けてまいります。



【本研究にあたり実施した調査の概要】

■ 「中国生活者ライフスタイル変化調査」

対象者数：3000 人

対象者条件：1-3 級都市在住、20-49 歳の男女

調査手法：インターネットアンケート調査

調査時期：2023 年 12 月

調査機関：Shanghai Zhongyan Network Technology Ltd.

■「中国生活者 2023 年再始動実態インタビュー調査」

対象者数：22 人

対象者条件：1-3 級都市在住、20-49 歳男女

調査手法：1 対 1 デプスインタビュー

調査時期：2023 年 10-11 月

調査機関：Shanghai Horizon Research Co., Ltd.

■「中日韓ライフスタイル/行動変化に関する国際比較調査」

対象者数：1400 人

対象国：中国(北京市、上海市、広州市)、日本（東京都、大阪府）、韓国（ソウル市、釜山市）

対象者条件：20-49 歳男女

調査手法：インターネットアンケート調査

調査時期：2023 年 9 月

調査機関：Opinion Research Shanghai Boyu Co., Ltd.

●博報堂生活綜研(上海)

Hakuhodo Institute of Life and Living Shanghai

博報堂生活綜研(上海)は、株式会社博報堂の独資子会社として 2012 年に上海に設立された、中国の博報堂グループのシンクタンクです。日本で蓄積してきた生活者研究のノウハウを生かし、中国における企業のマーケティング活動をサポートしていくと同時に、これからの中国の新しい暮らしのあり方を、中国現地で洞察・提言する活動を行っています。

現在の主要業務は以下の通りです：

- ・生活者の本質的な欲求を洞察し、新しい暮らしのあり方を提言する「生活者“動”察」
- ・自動車、化粧品など特定カテゴリーや若者、富裕層など特定の生活者を分析する「特定テーマ研究」
- ・生活者発想を基盤とした企業のマーケティング活動に対する「コンサルティング、提言」

「生活者”動”察」は、博報堂生活綜研(上海)と中国伝媒大学広告学院との共同研究です。毎年 1 回の「生活者“動”察」研究発表では、中国の生活者の行動と欲求の変化を分析し、独自のキーワードを提言します。今回の「軽啓 (Qingqi)」は、2022 年の「運域」に続く 11 回目の研究成果となります。

【報道関係のお問い合わせ】

株式会社博報堂 広報室 玉・ミラー koho.mail@hakuhodo.co.jp 03-6441-6161

【研究発表レポートに関するお問い合わせ】

博報堂生活綜研(上海) news@hakuhodo-shzy.cn